

東海連合三重支部主催「秋のテクテク会」によるハイブリッド見学会開催

10月21日（土）13時30分より東海連合三重支部主催で「鈴鹿市伝統産業会館」見学会をハイブリッド方式にて開催し、会場参加者はご家族の参加も含め12名、オンラインでは工業会本部から3名も含め6名合計18名の参加者で行われた。小松原理事長挨拶の後、同会館大杉室長から、千年以上前の起源といわれている三重県の伝統産業である『伊勢型紙』のこんにちまでの変遷や発展の歴史またその作成技法についての説明を受け、同会館の展示場を見学した際には、その作品の技術の高さ、素晴らしさに感嘆すると同時に近代以降はこのデザインが欧米で高い評価を受け、美術工芸品やインテリア等の用途にも幅広く使われている作品を見ることができた。その後会場参加全員と一部オンライン参加者も加わって、彫刻刀を使った『伊勢型紙』の作品作りを体験し、終了した。

見学会後、二次会参加有志が伊勢湾に面した喫茶店に集まり、酒党/珈琲党入り乱れての遠き青春時代談義が延々と続く中、夕刻散会となりました。



鈴鹿市伝統産業会館全景



阿部三重支部長挨拶と大杉室長の紹介



後列左から佐野武司(62W)、奥山幸生(52E)、松永恒夫(47C)、
倉林弘行(44C)、田村亮(H17B)、阿部桂三(46修S)、窪田健一(46W)
前列左から清水壺蔵(49C)、阪美里(H8C)、大杉室長、田村家族3名
オンライン参加者：小西憲二(49修C)、阿部雅信(44修C)
金井勇(46修S)、荒井武雄(46修S)
本部：小松原健夫、亀井登、渡辺沙織 (敬称略)



『伊勢型紙』作成体験コーナーの様子



見学会後の二次会参加者

左手前：松永、清水、倉林、奥山

右手前：佐野、窪田、阪、阿部